東北６県と整備局が創る
河川・ダム・砂防・海岸事業の新たな連携

「個性の大地」

第５号（平成１３年９月）
東北地方整備局 河川部
地域河川課　発行

＜連携トピックス＞

「土砂災害等に対応した無人化施工現地検討会」開催される
～危機管理に向けた県と国との新たな連携～



〈リモートコントロールによる
バックホウ運転状況〉

平成１３年８月３０日、岩手県岩手郡雫石町を会場として「土砂災害等に対応した無人化施工現地検討会」が開催されました。これは、整備局移行後に伴う新たな体制のもと、これまで以上に**県と整備局の危機管理に対する連携の必要性が叫ばれる中、国土交通省岩手工事事務所の主催により、各県の現場担当者、直轄の事務所担当者など約６０名が一同に会し**、検討会を実施したものです。

無人化施工は、火山の噴火や土石流などの災害後の危険な状態が続く中で工事を行う必要がある場合などに有効な施工技術として、雲仙普賢岳の災害や有珠山の噴火等において、その技術の有効性が実証されているところです。

東北地方は、１５の活火山を有し、「特に活動が活発な火山」と位置づけられている全国２８火山の内、約３割にも相当する８つの活発な火山（岩手山・吾妻山等）があります。特に、現在、岩手山などの火山活動の継続が確認されている火山もあり、有事の際には、県、国などの行政機関の協力体制のもとで迅速な対応が求められています。

検討会では、（財）先端建設技術センターより主に行政担当者向けに調査、計画、発注、施工、管理、検査などの手引き書として７月に発行された「緊急時の無人化施工ガイドブック」の解説、建設無人化施工協会より無人化施工機械の説明及び操作実演などが行われました。

今回の参加者は、**ほとんどが現場を直接担当している技術者ということもあり、毎年東北地方で５０件以上も発生する土砂災害や東北地方の至る所に存在する活火山を日頃から目の当たりにしているため、参加者全員の熱心な空気が検討会会場を覆っていました**。



〈無人で動く重機を見つめる参加者の様子〉

参加者から一言

近年頻発している土砂災害により、我々行政側の危機管理意識が高まる中、被災後の二次災害等による安全確保も重要な課題となってきています。無人化施工は、施工時における危険要素を除去し、作業員の尊い人命を守る上で有効な手段であると実感しました。

今後もこのような機会を通じて、県の技術向上が図ることが出来ましたら幸いと思います。

（宮城県砂防水資源課技術主査　豊田昭浩）

＜地域連携シリーズ：各県からの報告＞

地域とともに歩む木戸ダム建設事業

福島県木戸ダム建設事務所　次長　宮澤　文夫

木戸ダムは、洪水調節、既得用水の安定化と河川環境の保全、上・工水の確保を目的とした多目的ダムであり、堤高９３．５m、堤頂長３５０．０m、堤体積５０４千㎥の重力式コンクリートダムです。本ダム建設事業の全体事業費は４０４億円で、平成３年度に建設採択を得て、平成１２年１０月に本体工事を発注し、平成１９年度の完成を予定しております。現在はダム本体の基礎掘削中であり、平成１３年度末までに約８割の掘削が完了する見込みとなっています。

木戸ダムが建設される双葉地方は日本有数の電源地帯となっていますが、本ダムが位置する**木戸川は、鮭漁が有名で、県内屈指の水質**を有しており、中流には**風光明媚な木戸川渓谷**を擁する等、**四季を通じて地域の人々に親しまれております**。また、木戸川河口付近には**天神岬スポーツ公園**や**サッカートレーニングセンター「Ｊヴィレッジ」**、温泉施設を有する**道の駅「ならは」**等の観光資源が集積しています。更に、いわき市四倉まで開通済の**常磐自動車が平成１３年度末には広野町まで開通予定**となるなど、**本地域は今後益々の発展を見せることとなります**。

私たち木戸ダム建設事務所職員は、この豊かな自然に十分配慮し自然との共生を図りながらダムの早期建設を図って行くことは勿論ですが、その過程においても、**地域の皆さんと触れあう機会を数多く持ち、本ダムを地域に親しまれ、地域づくりの核となるものにしていくための努力を惜しんではならないと考えています**。その結果、前述した**観光資源と新たに創出されるダム湖が融合し、より大きな地域振興のネットワークを形成することができるものと信じてダム建設を進めて参りたいと思います。**



〈ダムサイト下流から上流を望む〉



〈Ｊヴィレッジ全景〉

＜新たな連携による地域づくり＞

「東北の川づくり研修会」開催される
～国・県・自治体の若手技術者１５０名が集う～

７月２５日、仙台市内で「東北の川づくり研修会」が開催れました。これは、１月からの中央省庁等の改革に伴い、新しい河川行政システムがスタートしたことなどから、東北地方整備局と各県・自治体の若手の河川技術者が合同で地域の個性や連携などを重視した東北の川づくりを目指し、学ぶことを目的として開催されたものです。

研修会では、**河川局河川環境課池内企画専門官（現治水課）より「良好な河川環境の保全と復元」、（財）リバーフロント整備センター土屋専務理事より「川づくりの技術的視点」**と題して、御講義をいただきました。国・県・自治体の出席者約１５０名が会場を埋め尽くし、熱心に耳を傾けていました。



〈豊富な経験を題材とした川づくりの持論を熱く語る土屋専務理事〉

＜山・川・海みちのくのホットニュース＞

「蔵王山火山防災マップ検討委員会」開催される
～地域と行政が考え実践する危機管理～

蔵王火山防災マップ検討委員会の第１回目が去る**８月１０日に宮城県白石市で開催**されました。

蔵王火山は、奥羽山脈上に位置する成層火山であり、**有史以来、約４０回程の噴火記録が残っている活火山**です。

我が国において、平成１２年に発生した有珠山・三宅島の噴火活動は記憶に新しいところです。この時、**避難範囲・避難場所・避難時の心構え等の事項が記載されている「防災マップ（ハザードマップ）」が住民に公表されていたことが避難活動にとって重要**であることが認識されました。このような背景の下に、地域住民・行政及び観光客等関係者に火山災害に対する正しい理解と知識、さらにはその危険性についても理解をしていただくために防災マップを作成することになりました。

作成に当たっては、**地域の代表や専門家等からなる検討委員会が組織**され、今回を含め、計３回の開催を予定しており、**今年度内の作成を目途**としています。

第１回目は、蔵王山の過去の噴火記録などが説明され、それを基にしたシミュレーション結果の概要などが説明・討議されました。

次回は、１１月に山形県内で開催することを決めました。



〈火山防災マップ委員会の様子〉

「全国なぎさシンポジウムＩＮあおもり」の開催案内

青森県河川砂防課

「全国なぎさシンポジウムＩＮあおもり」が平成１３年９月１８日から１９日にかけて青森県で開催されます。全国なぎさシンポジウムは昭和６３年度に神奈川県で第１回目を開催して以来、本県が**１４回目の開催地**となります。

２１世紀を迎え第１回めの開催となる今回は**「縄文から未来への架け橋“あおもり・なぎさ”」をテーマ**に、古くから人と海の接点である「なぎさ」を通じ、両者のより良い関係を築くため、貴重な自然財産である**「なぎさ」の役割と大切さを再認識し、豊かで美しい「なぎさ」を守り、再生する方策等について意見交換**し、また、美しい「なぎさ」を守るためには、相互に大きな関わりを持つ**森、川、海の一体となった保全が必要であり、その方策についても検討します**。



〈海水浴客でにぎわう白浜海岸（八戸市）〉



開催日：平成１３年９月１８日（火）～１９日（水）

会　場：ホテル青森「孔雀の間」（青森市堤町１－１－２３）

参加者：約１，２００名

＜県担当者の声コーナー＞

地域が望む地域に合ったダム造り

私は今年の４月から、７年ぶりにダム事業を担当することになりました。ダムの担当を離れていた６年間は土木事務所での河川改修事業、および砂防課での地すべり対策事業と、言わば“水商売”の職域を担当してきたのですが、今回、再度ダム事業を担当することになって新しい時代への大きな流れを感じております。

このような状況の中で、**ダム事業を推進するに当たっては、ダムの目的、ダムの必要性、ダムが出来た場合の姿等を、地域の人々にしっかり説明し納得してもらい、常にお互いが意見交換できる環境を整えた上での、ダム造りが必要であると考えております。**

関係住民への説明会にも出席しましたが、地域に密着した事業を展開するためには地域との連携が不可欠であり、事業計画段階から地域の人々に参画していただき、一緒に事業を進めるという意識の土壌造りが必要であると感じました

今後は手探りの状態ながら先進県の意見および事例を参考にし、**地域の人々との意見交換を通しながら、地域が望む、地域に合ったダム造りが必要**であると考えおります。



青森県県土整備部
河川砂防課河川開発班
主幹　秋村純一

山形から発信
アルカディアのがけ崩れ・雪崩対策

山形はイギリスの女性冒険家イザベラ・バードが「東洋のアルカディア(桃源郷)」と称賛したとおり、山に囲まれ自然あふれ、四季に富む美しい県です。

一方、高齢化率が全国３位と高く、また福祉施設に入所できず独り暮らしのお年寄りも非常に多くいます。特に、山間部においてはその傾向が高く、豪雨時の土砂災害には迅速な避難が出来ない状況にあります。そのため、**万が一の事態にも対応できる施設づくりや高齢者がお互いに支え合うことができる地域づくりのため**ハードとソフトの両面から支える急傾斜地崩壊対策・雪崩対策事業を進めていこうと考えております。また、地域住民にとっては、毎日目の当りにする施設となることから、景観への配慮は元より**利用勝手の良い施設とすべく地域住民と膝を交えて共に考えていく**取り組みをしています。

これからも、「人 はばたく ゆとり都 山形」山形県新総合発展計画に基づき、土砂災害を未然に防止し県民の生命財産を守り、**安全で快適に暮らせる美しい県土形成のために全力で取り組んでいきます**。



山形県土木部
砂防課斜面保全係
技師　鈴木 賢一

編集後記

整備局移行後、初めての概算要求作業もほぼ終盤となりました。

国全体が新たな行政システムのもとで初めての経験をしている中、各県の御協力のもと地域河川課も日夜奮闘しているところです。これからも真に豊かなみちのくの“個性の大地”実現を目指し、県と整備局が一緒に考え、共に実践して行く時代を創って行きたいと考えています。

今回は、青森県河川砂防課を始め多くの皆様から投稿をよせていただきました。地域の話題、新たな取組みなど積極的な投稿をお待ちしています。



編集委員　水越

本誌に関して御意見、問い合わせがございましたら　地域河川課　までお願いします。
発行　国土交通省 東北地方整備局 河川部 地域河川課
〒980-8602　仙台市青葉区二日町９番１５号
℡022-225-2171(大代表)､225-2024(直通)　FAX022-282-6690
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞｱﾄﾞﾚｽ、http://www.thr.mlit.go.jp/（東北の川めぐり）